

博物館だより



No.196

令和5年3月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

博物館休館日カレンダー							
2023年 3月							
日	月	火	水	木	金	土	
26	27	28	1	2	3	4	
5	6	7	8	9	10	11	
12	13	14	15	16	17	18	
19	20	21	22	23	24	25	
26	27	28	29	30	31	1	

休館日 ※情報はR5.2.17現在

◆博物館NEWS

令和4年度 第37回作品公募文化事業

みやこ町 少年少女俳句大会の結果について ―大会概要と今期入賞作品の紹介―

京都平野に春の訪れを告げる名物行事「みやこ町三重塔まつり」。残念ながら今年もコロナ禍により中止となりましたが、これを記念する文化行事「少年少女俳句大会」は、表彰式を行わない形で昨年同様に開催されました。

その結果、コロナ禍にも関わらず、多くの小中学校から応募をいただき、次のような成果をおさめることができました。

- ・応募総数：七九〇九句
(参加児童生徒総数：三四九一人)
- ・内訳 小学校：四四九一句
中学校：三四一八句
(うち入賞・入選句：二六八句)

ご協力頂きました児童生徒の皆さんをはじめ、学校・保護者や協力機関等関係各位に厚くお礼を申し上げます。

さて、大会の結果ですが、例年ご協力頂いています豊津俳句会(岩井小夜子代表)の皆さんによる審査の結果、以下の作品が最優秀・特選句として選ばれました。

●小学校の部

- ・特選「小宮豊隆賞」
ひらひらとちよつのように散る桜
- 久保小 六年 吉武 航
- ・特選「三三四郎賞」
ねえちゃんはるすばんぼくの入学しぎ
- 犀川小 一年 岩倉 佑朔

・特選「蓬里雨賞」

わた毛はねたんほぼからの手紙です

仲津小 二年 岩男 莉歩

●中学校の部

・特選「小宮豊隆賞」

炎天下運ばれていく鉄パイプ

犀川中 一年 田中 悠斗

・特選「三三四郎賞」

鉛筆もわたしも尖る受験の日

行橋中 三年 楠本 怜奈

・特選「蓬里雨賞」

蜩の鳴くころの空もつ暗い

仲津中 一年 谷口 晏奈

以上の句をはじめ入選賞句(教育委員会賞・秀逸計55句)は短冊様の木札に記し、豊前国分寺跡公園内の梅の木に下げられていますので、梅見を兼ねてぜひご覧下さい。



▲公園内の梅の木に下げられた特選句を記す短冊様の木札
木札は選者・岩井小夜子様にご提供いただきました

◆講座教室・催し物ガイド 3月の歴史講座

- 【漢詩紀行講座】
3月4日(土) 9時30分
- 【古文書講座】
3月11日(土) 10時
- 【古典かな講座】
3月18日(土) 9時30分
- 【みやこ学講座】
3月25日(土) 10時

※日程等変更となる場合があります。
※見学会等は別途通知します。

博物館で「楽習」始めませんか?



▲ボランティア・ガイド編の様子 「昔の道具とくらし」学習
では子どもたちに実体験を交えてのお話などをします

博物館は郷土資料と学芸員らのサポートによる知と学びの拠点です。以下の会や講座を利用して楽しく学びませんか? 詳しくは博物館へお問合せ下さい!

★博物館友の会

バスハイク・歴史たんけんウォーク等の学びの旅やイベントに参加できます。

★文化遺産ボランティア(豊み隊)養成講座

町の宝を三つのアクション①ガイド(案内)②ガイド(管理)③ワーク(調査)でサポートするスタッフを募集・養成する講座です。

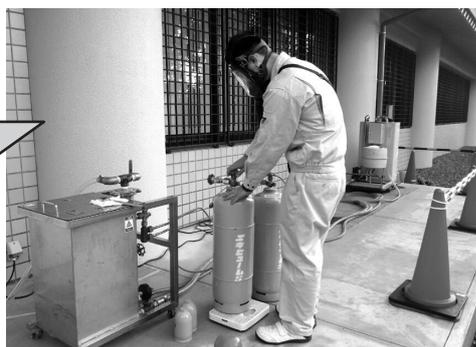
12月・1月の業務日誌から

12月25日(日)から5日間、博物館を臨時休館して館内燻蒸作業を行いました。収蔵資料を虫やカビの害から守るため欠かせない作業で、毎年この時期に行いますが、作業は無事に終了しました。

1月26日(火)、この日が文化財防火デーであることに因み、博物館で防火訓練を行いました。豊前消防署京都分署から署員にもお越し頂いて「もしも」の際の動作について確認し、初期消火訓練も行いました。



▲この日は水消火器による初期消火訓練も体験しました



▲作業では館の奥深くに入り込む虫等を薬剤で駆除しました

みやこの歴史発見伝 155

140年前に
外国人が調査した
みやこの町の古墳⑥

イギリス大英博物館収蔵資料から

綾塚古墳の調査から140年

明治4年に開業した大阪造幣寮（現在の造幣局の前身）にイギリスから招聘された冶金技師のウィリアム・ガウランドが明治16年（1883）にみやこ町勝山黒田にある「綾塚古墳」で行った測量調査から今年で140年を迎えます。

現在国内では年間約1万件の発掘調査が実施されていますが、彼は国内ではじめてこの発掘調査の記録方法を確立した人物として知られ「日本考古学の父」とも称されています。近年の調査の結果、彼が綾塚古墳で行った調査や記録の方法が、140年間ほとんど変わることなく現在、国内で行われている古墳の墳丘測量や石室実測図などの記録方法に受け継がれていることが確認されました。今回



ウィリアム・ガウランド (1842~1922)

は彼が確立した記録方法を踏まえて、デジタル化した最新の測量技術をご紹介します。

戦争と文化財

2月24日でロシアによるウクライナへの軍事侵攻から1年が経過しました。この間、数多くの尊い人命とともに、ウクライナの長い歴史の中で大切に保護されてきた文化財も、ミサイル攻撃などにより一瞬にして失われています。このように、これまでの戦争や災害によって、もう二度と元には戻す事ができない多くの大切なものが失われてきました。

現在、レーザーस्क্যানデータやドローンなどを使って様々なアングルから対象物の写真撮影を行い、そのデジタル画像を解析・統合して立体的な3Dモデルを作成する3次元写真測量法（フォトグラメトリー）という最新の測量技術が注目を集めています。2019年に発生したフランスのノートルダム大聖堂の火災では、建物の大半が被災しましたが、この技術によって建物の細部まで再現されたデータを活用しながら、現在の建物の復元を試みています。このように様々な文化遺産を細部まで3Dモデル化し、戦争や地震、火災などの被害を受けても、その復元につながる新たな技術としてこ



入口側

橋塚古墳石室断面データ(提供:西日本新聞メディアラボ)

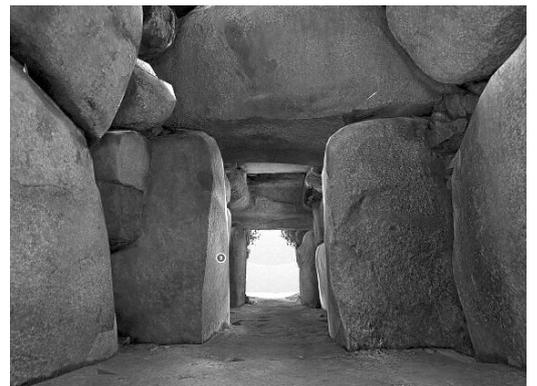
の3次元写真測量法の活用が期待されています。

3D化された橋塚古墳

この3次元写真測量法の技術をさらに発展させ、古墳の仮想現実（バーチャルリアリティ…VR）化の実証実験がみやこ町勝山の黒田小学校にある橋塚古墳で行われました。この古墳も140年前にウィリアム・ガウランドによって調査されていますが、今回この古墳を対象に撮影や測量が行われました。まずドローンを使って橋塚古墳の墳丘全面を800枚、石室内部を対象に1000枚の写真撮影を行いました。その画像データをコンピュータで計算して3Dモデル化し、これをもとにバーチャルリアリティ（VR）のデータを作成しました。このVRデータ作成には写真撮影に2日、データ作成に一週間という驚異的なスピードで高精度の3Dデータが完成しています。専用ゴーグルを着用して橋塚古墳の石室内部のバーチャル空間を体験してみると、実際の石室内部にいるような錯覚を覚えるほどリアルな空間が再現され、またこれまで気付かなかった新たな発見をすることもできました。

140年間継承された記録方法

このように3次元写真測量法など最新技術を用いた測量方法は



橋塚古墳石室内部データ(提供:西日本新聞メディアラボ)

日々進化を重ね、その成果データもさらに高精度化しています。これらの文化財のデジタルデータは修理などの目的に限らず、距離など様々な制限を超えた調査研究資料としての活用が期待されています。このようなデジタル技術を活用した古墳の平面・断面測量などの記録方法も、140年前にガウランドによって確立された方法に基づいたものであることを考えると、彼が確立した記録方法の完成度がいかに高かったかが伺えます。また140年前にみやこ町で行われた古墳の調査が、現在の発掘調査記録方法の確立の一端を担ったことは日本考古学の研究の歴史の上でも注目されるものです。この時作成された綾塚古墳の実測図面は、現在、イギリスの大英博物館に収蔵されています。

(井上信隆)